

平成23年度 財団法人焼津市振興公社事業報告書

1. 総括事項

財団法人焼津市振興公社は、その目的を達成するため、平成23年度において概ね次のような事業を行いました。

(1) 地域文化の振興

焼津及び大井川文化会館では、国内外の優れた芸術文化の鑑賞機会を広く市民に提供するため、自主文化事業を積極的に実施致しました。事業の実施については、市民の要求と経済性を考慮した上で良質な催事を選択し、他の団体・機関との共催事業を含め、文化会館としては74本（焼津49本・大井川25本）の自主事業を行いました。多くの市民の鑑賞を得、好評を博しました。

観客動員の対策として、テレビ、新聞広告等を利用した事業PRを積極的に行うと共に、文化事業情報の提供のため情報紙「いべにゅ」・「ミュージコクラブ」を毎月発行いたしました。

利用者の利便性やサービスの向上を目的にチケットシステムを導入しました。両文化会館をオンラインで結びインターネットの予約やチケットを両館で受け取ることが可能となりました。また、より多くの人々が気軽に利用できるよう託児サービスも実施しました。

ディスカバリーパーク焼津天文科学館では、光学式とCGの複合型プラネタリウム（H22.3導入）を活用した「実際の空を忠実に再現した美しく鮮明な星空」や「国内最高水準の高解像度CG投影機を使った迫力のある映像」の投影により、小惑星探査機「はやぶさ」の帰還（H22.6）以来、全国的に高まっている宇宙や天文への関心に応える投影を実施しました。学習投影では学校側との詳細な打合せを重ね授業の内容に対応した内容の投影を実施しました。展示・科学体験分野では、楽しみながら「見て」「触れて」「体験する」ことができる特別展を4回開催しました。本年は職員が企画から制作・設置まで直接行い、経費を抑制しながらも子ども達が身近な科学を体験できる展示の実施に努め、9月～12月に展示した「人の五感」を試す『体験！ちょうせん！感かくクイズ展』は高い評価を得ました。

(2) 公の施設等の管理運営の受託

地域文化の振興拠点である文化センターの施設管理と焼津文化会館及び大井川文化会館の運営、ディスカバリーパーク焼津天文科学館の管理運営、ディスカバリーパーク焼津内の公園・広場の維持管理を行いました。

焼津・大井川文化会館及びディスカバリーパーク焼津天文科学館の施設運営については、市民の様々な要求と期待に添うことができるよう、複合施設としての機能を生かすと共に、弾力的、効果的な運営に努めました。その結果として、焼津文化会館では大小ホール、会議室等の効率的な貸館業務の運営を行い、年間利用者数は251,930人、年間会館使用料収入は42,902,780円を計上し、同様に大井川文化会館では、年間利用者数73,480人、年間会館使用料収入は10,503,540円を計上しました。

また、ディスカバリーパーク焼津天文科学館においては、3月11日に発生した東日本大震災や田尻海岸に立地することが大きく影響して、年度前半の入場者数が伸び悩み有料入場者数はプラネタリウムをリニューアルした昨年度を下回りましたが年間目標の107,000人を超え111,009人となりました。

以上により、今期の収支は事業活動収支の部では収入533,937,069円、支出531,746,326円、収支差額2,190,743円、投資活動収支の部では、収入0円、支出1,215,727円、収支差額△1,215,727円となり全体の差引で975,016円の利益を計上しました。

今後とも、焼津市との緊密な連携の下、公社の合理的な運営を図り、市民サービス向上に一層の努力を重ねる所存です。